

子ども食堂を通じて 地域のコミュニティ創り

岡山県岡山市北区 つしまみんな食堂





楽しく子どもたちがのびのび育ち、子どもからお年寄りまでお互いが助け合える地域にしたい!そんな想いから、平成30年より「つしまみな食」(代表・前田泰史さん)は立ち上がった。

津島学区は岡山市内の中心部に位置し、高校・大学・病院等が整った文教の地となっている。地域柄、転勤族や共働きの子育て世帯も多く、地域活動は活発に行われているが活動に無関心な人も多く、活動を担う人材不足も顕著となっている。また学区内でも高齢化率に大きな差があり、多世代交流が少なくお互いが助け合える地域づくりに苦慮している。

「つしまみな食」では食を通じて、みんなで作る楽しみ、食べる楽しみ、地域でつながりを作ることを目的に、社会福祉法人報恩積善会などと協働して子ども食堂を開始。高齢者施設の地域交流スペースを活用し多様な専門職の参加もあり、法人としては公益的な取り組みとして協力を得ている。

献立は栄養士が栄養計算を行い、バランスの取れたメニューを考え、食材もできるだけ地産地消を念頭に地元でとれたものを使うように工夫している。また大学の栄養学科の学生を実習で受け入れていたため、ボランティアとしての参加と共に、献立作りや食育講座を行うなど勉強したことを発揮する場として少しずつ関わりを深め学生にとっても学びの場となっている。

子ども食堂の活動以外にも、子どもや地域住民の居場所づくり、交流の場づくりのため定期的にワークショップを開催。物作りなどを通じて地域のつながりを作る体験活動、発達障害の子どもたちを主体とした運動支援の場など幅広い活動を行うことで、色々な立場の人が交流できる場づくりを行い地域内で顔の見える関係が少しずつできつつある。

一昨年4月よりコロナウイルスの感染拡大に伴い福祉施設での活動ができなくなり、子ども食堂や居場所づくりの活動が中止せざるを得ない状況であったが、他の子ども食堂と連携し「フード&ライフドライブ」を開催。2日間で2000点の物品を集め、子育て世帯を支援する活動も行った。その後も一昨年は3回、今年度も4月に実施し横の連携を深めながら支援が必要な家庭へ物資を届けている。

一昨年9月からは京山公民館の協働により、場所を公民館にて開催することになった。月2回子ども食堂とワークショップ等の活動を行い、毎回20世帯ほどの子育て家庭が参加するようになり、つながり作りと共に体験活動や物資支援を行っている。感染対策として気を配ることも増えたが、作る体験活動は継続して家庭ごとに作ったり、人数を制限しながら行っている。

「ピーマンが食べられなかったのに食べられるようになってうれしい」「家では忙しくて作らせてあげることができないのでいつも楽しく参加させてもらっています」と子どもや保護者の方から感想を頂くことも多く、体験を通じて食育の場となっている。人数を制限していることもあり参加人数に限りがあるため、参加をお断りせざるを得ないことも多いが、家族みんなで参加する家庭もたくさん増えてきており、地域の中での顔の見える関係づくりと共に家庭で見えにくい課題や悩みを聞くことで、他の機関へつなげることも少しずつではあるができていく。

コロナ禍で中断することになったが学区のボランティア団体である津島生活学校の皆さんも毎回協力していただくようになり、継続した活動ができるようになっていく。

その他にもフードバンク団体と連携し、賞味期限が近い食



品を地域の子育て世帯や高齢者世帯へ配布するフードパントリー、フードシェアリングを実施。200世帯以上の京山学区を中心とした家庭へ物資を届けている。フードシェアリングでの食品は、子育て家庭だけでなく、一人暮らしの高齢者世帯や地域サロンでの集まり等にも出向いて配布し活動を知ってもらおうきっかけと共に、地域の高齢者の方の声を聞く機会にもなっている。

またコロナ禍で生活が厳しい状況の大学生へも配布を行い、また活動へボランティアとして参加してくれることもあった。フードバンクの活動を通じては、食品をもらうようになって家庭内でもできる食品ロス削減の活動について子どもと話をする機会が増えたり、もったいないので買いたくないようにしている等の声を聞く機会も増えた。

活動を通じて学区内の団体、お店や企業等とも少しずつつながりを作ることができ、活動への協力を得られることが多くなっているが、まだまだ地域内で真に困っている子育て家庭や一人暮らしの高齢者世帯への支援が行き届いていない現状がある。つまみみんな食堂では、子どもから高齢者、障害の有無にかかわらずみんなが支え合える地域になるよう、つながりを大切に少しずつ地域の和を強くしていきたいと考えている。その中では同会のメンバー自身が楽しんで活動することを忘れることなく、無理なく継続した取り組みを続けることを大切に、活動を続けている。

つまみみんな食堂を通じて地域で顔の見える関係ができ、困った時にちょっと声を掛け合い助け合える地域になるように活動を続けていきたい。また活動に共感していただくボランティアの方や団体、地域の企業等多くの方の協力をいただき、みんなで助け合える地域になるよう、一歩ずつ活動を行っていきたくと考えている。